

2014.08.05-07

中学生よ 月の浦から 世界とつながれ

お父さんたちのネットワーク

石垣政裕

お父さんたちのネットワーク被災地支援活動報告 No. 27

川崎市の臨港区の地域教育会議の方々から「中学生を地域で育てるために被災地でのボランティアをさせたい」とのことでお話があり、お父さんたちのネットワークが支援するという経緯がありました。これまでの2回は大原浜での水産の手伝いをおこなってきました。今回は3回目です。

月の浦の地区長相澤さんは「お盆で人が来るときに、草が刈ってあって、きれいになっていることがうれしい。」と話しておられました。

臨港中学校石巻ボランティア

主催：お父さんたちのネットワーク

催名：川崎市立臨港中学校石巻ボランティア

月日：2014年8月5日(火)～7日(金)

場所：石巻市月の浦（石巻市侍浜西山）

亘理町宮前仮設住宅

活動内容：

月の浦展望台および浜までの道路の草刈り、ごみ拾い
トイレ掃除

亘理宮前仮設住宅での生卵の配布

活動参加者：中学生6名、大学生3名、地域の方3名、学校教員4名

お父さんたちのネットワーク 1名 計17名

ネットワーク参加者 照井貴広（鹿島台おやじの会）

佐々木裕一（多賀城中おやじの会）

石垣政裕（お父さんたちのネットワーク）

スケジュール

2014. 8. 5大崎市鹿島台学童農園到着

事前学習 「なぜ162人

全員が助かったのか」

8. 6 月の浦清掃活動

女川視察

8. 7 宮前仮設住宅

花兄園の生卵を配布



0. 事前学習 女川のできごと

あいかわらず照井シェフの献立はすごいと思いました。鹿島台学童農園の調理場を駆使して、「今回は和食にしました。」生徒の感想文でも照井さんはすっかり『シェフ』になっていました。鹿島台の山の中で食べる海鮮丼は佐々木さん（多賀城中おやじの会）の食材提供を受けての豪華版でした。



海鮮丼に舌鼓を打った後、夜の事前学習を行ないました。今年のテーマは「なぜ162人全員が助かったのか」

同名の本を出版された著者、日中友好協会宮城県連泉支部の藤村三郎先生と高橋礼二郎先生に来ていただいて、震災時女川で津波に遭遇した中国人実習生の出来事をお話しいただきました。国境を越えた「つながり」が命を救ったことに感動した様子でした。



「女川で中国人研修生162人が、バラバラで全員助かったことはすごいと思う。自分の身を犠牲にして助けたこともすごいと思った」（中2男子）
「日本だけの問題でなく中国などの国も関わっているとは知らなかった。松島見学で実際に沢山の人が亡くなっているんだと考えると少しでも役立ちたいなと思った。“日本人が中国の人を助けた”と言う事は、同じ日本人としてとても誇らしかった。私もこ

ういう人になりたい。こういう心の優しい人が増えていってほしいと思った。」(中2女子)などの感想文が後日寄せられました。

1. 月の浦高台から浜に掛けての草刈り

昨年、月の浦の仮設住宅を訪れたとき、中学生とPTA会長さんとが区長さんのお話を聞き、「来年はじゃあ草刈りをやります。」と宣言しました。8月6日、前日鹿島台学童農園に泊まって、いよいよ草刈りをやることになりました。



3班に分け、(1)草刈り(2)ごみ拾い(3)トイレ清掃を行ないました。

草刈り機は川崎からマイクロバスではこんできた1台とお父さんたちのネットワークが用意した1台の2台で刈りはじめました。

暑い、とてつもなく暑い。それでも朝早く出発したので、午前中のうちには高台の部分は刈り終わりました。お昼にいただいたアイスキャンディが気持ちいい。

なにしろ、月の浦は震災後は9戸しか残っていません。草刈りをするなど余

裕はありません。石巻市の観光課の方も「なかなか、そこまでは手が回らないのですよ」と申し訳なさそうにお話ししていましたので、



「おやじ」の出番かなと思ったわけです。ボランティアは今回で3回目ですが、仕事の仕上がりが見えるので、いつもより達成感が感じられるとはりきって作業をこなしていきました。

午後からは、求めに応じて浜までの道路脇の草刈りも行ないました。持って

いった土嚢袋はすべて使い果たしました。

「被災地の視察やボランティアをして、テレビでは伝わりきれない事が伝わってきて実感した。そして東北の人たちの「力」はすごいと思った。今後、僕たちも東北の人たちを見習うべきだと心から思ったので、とてもいい経験になったと思う。」(中2男子)
「掃除とペンキ塗りをやったあとに感謝されたのが嬉しかった！女川を見た時に、どれぐらい津波が来たのかと津波の恐ろしさがわかった。全部、町が流されちゃってたけど、今の女川を見ると、繁華街だったのが想像できない。」(中2女子)

2. 高台のトイレ掃除

支倉常長がローマに向けて出帆した有名な観光地でもあるので、訪れる人も多いと聞いています。そこで、トイレの掃除をし、ペンキで塀を塗り替えました。

「掃除とペンキ塗りをやったあとに感謝されたのが嬉しかった！女川を見た時に、どれぐらい津波が来たのかと津波の恐ろしさがわかった。全部、町が流されちゃってたけど、今の女川を見ると、繁華街だったのが想像できない。」(中2女子)



3. 周辺のごみ拾い

ごみを拾わないで居ると、また、ごみが捨てられます。斜面があるので大学生が中心になって、ごみを拾いました。軽トラックにごみが満載になりました。後で、鹿島台おやじの会の照井さんが仕分けをして処分してくださいました。



4. 巨理町宮前仮設住宅での卵配り

今回、2回目なのですでに経験があり、スムーズに配布できた。不在のところは事務所で預かっていただきました。暑いので、できるだけ卵も地面に近づけないように運びました。そしてできるだけ、お話をするように心がけました。中学生にとってはとてもいい経験した。

「2日目のトイレ掃除とか色々な事をやった後に、町の人に感謝されたのが嬉しかった。人のために汗を流して必死にやるのはスゴイ良い事だと感じました。その被災した人達も、家族が亡くなったりし



ているし、家が流されたりと色々辛い思いをしているのに、前の活気を取り戻そうと、復興の活動をしているのは、スゴイ心が強くて、本当に尊敬します！卵を配った時も、すごく喜んでくれたり、何度も「ありがとう」と言われたり、こっちが「元気にさせよう！」と思っていたのに、私が元気をもらいました。この3日間、とても楽しい体験になりました。」(中2女子)